

# 「えこひいき 帰属意識」

## ヤコブ2章

今日はハラスメントについて考えたいのです。排除という目線をクリスチャンも持っています。日本の教会でも内部の論争や分裂は時として教会の存続が危ぶまれるような大きな問題に発展することもあります。大きな問題は帰属意識です。ハラスメントはなぜ起こるのかという帰属意識からくる問題なのだとことです。御言葉をみながら学んでいきたいと思います。

### ■ えこひいき

えこひいきとはいったい何でしょうか。同じことをしているのにお兄ちゃんは許されて弟は許されないということです。えこひいきという事が何故起こるのでしょうか。それはくくりがあるからです。性格のくくり、言う事を聞く子のくくりや言う事の聞かない子のくくり、自分の目線でその人が好きか嫌いかという意識です。

ここで動画の例えを見て行きましょう。動画の内容は、弱者が理不尽にいじめられている現場に遭遇した場合、周りの人はそれに対してどのように対応したかを実験的に撮影したものです。一組目は帰属意識をもって問題を解決しようとした人達でした。そして二組目は平和を保ちながらいじめられた者に対してだけではなくいじめていた者に対しても憐れみを持って寄り添い解決をした人達でした。一組目は、いじめられている弱者に対して帰属意識を持っている人が、同じ痛みを感じ、共感し、いじめている人に敵対的に解決をしようとした姿が映し出されています。これは一般的に多くの人たちが同じような反応をしているのではないのでしょうか。これはこの世の道徳観念からしても間違っているわけではありませんが、聖書はもっと上を求めています。

二組目はいじめている者に敵対して解決をするのではなく平和を保ち弱者をいじめている者に対して向き合い整え仲間になりました。弱者にだけでなく加害者と思える方にもその痛みを寄り添ったのでした。あの人は良い人、この人は嫌いな人、この人達は私と違う人と人を自分の物差しでジャッジしていることが既にえこひいきをしている事になるのです。人間は目の前に自分の存在を脅かすものは現れると人や状況をジャッジし敵を排除しようとし、これが人間の愚かな法則です。自分の思いと違う方向に進んだ時、友達かそうでないかによって大きく変わります。友達なら許せますが、同じ敵対心にもかかわらず嫌いな人だと許せないのです。これがえこひいきです。私たちは相手がどんな苦しみや、悲しみに遭ったのか分かりません。それなのに自分の勝手な判断で相手を排除し、えこひいきしてしまうのです。えこひいきし、他者を排除してまで自分を守ろうとする思いがないのでしょうか。

### ■ 身体の役割

心や精神、地位や立場などを持つ人間の場合に身体という漢字が使われます。手、目、口、鼻、頭という存在は大事ですがもしそれが単体ならあなたは動物です。ところが、身体になると目、口、鼻、頭が統合されなければなりません。とするならば、あなたは統合するのが仕事です。あなたは自分が置かれている場所で各器官を統合し一つの身体になるべく神経を体中に張り巡らして一つの身体とするような働きが出来るのでしょうか？神様はわざわざ一人の孤独な信仰の人生を喜ばれませんでした。なぜならあなたは身体の一つの器官だからです。あなたが欠けて身体が成り立つわけではないのです。お互いに一つの身体の組織として統合させていくことが大切です。そうでなければ痛です。身体の遺伝子の命令に背いて勝手に増殖して血管についてそこだけに栄養を注いで身体はやせ細りそこで成長してしまい他の細胞には栄養がいかなくなり、人間も同じです。愛していればそんな事は起こりませんが、愛していなければ組織を壊そうとします。もしあなたが任されている領域がうまくいっていないのなら、それは愛がないからです。聖書は神様を自分の心の中心に置きなさいと繰り返し教えています。私達には愛がありません、義人も一人もいません。そんな私達だから神様を中心に置くことが大切なのです。神様を中心に置くと愛が生まれます。えこひいきという価値観が無くなります。職場や家庭、置かれた場所で帰属意識が生まれていないのでしょうか。本当の帰属意識とはこの大きな地球に帰属しているという意識なのです。神様はこの地を私の様に愛しなさいと言っています。あなたが与えられた組織を愛していますか。イエスは糞土にまみれた汚いこの世に來られ愛を示されました。あなたは何かのためにそこにいるのでしょうか。悪い人と良い人をジャッジして選りすぐる為にいるのでしょうか。そうではなく身体を一つにする為そこにいます。

### ■ 憐み (ヤコブ2:12~14)

嘘をつかないと言っている人も人を憎んでいるなら一緒だと聖書は言っています。罪の良識というのは人によって違います。違うという事は何がルールなのかを知らなければいけません。皆でズレたものを少しずつ直していくのがルールです。そこで身体全体で協力し合うのです。『自由の律法によって裁かれる者の様に語る』(ヤコブ2:12)とは、あなたは赦された者、自由にされた罪人であり、神様を信じるにより清められるという全ての人に与えられた恵みです。これが自由の律法であり、人を裁かないということです。自分が帰属する組織に向いてしまうのは、憐みではなく同情です。しかし、聖書は同情ではまだ愛ではないと言っています。憐みとは隣人愛です。その人を自分の様に思うという事です。弱者が目がいくのが憐みではなく、弱者をいじる側に(敵に)目がいくことが憐みです。憐みが上手く出来ない理由は愛していないからです。

### ■ 一体による行い

身体を役割を感じてください。他人が役割を果たしている時、あなたはあなたの役割に最善を尽くせば良いのです。折角他人が役割を果たしているのに対してイライラする必要はありません。イライラするのはえこひいきしているからです。何かをする時は憐れんでください。しかし、同情しないでください。相手の事を理解する為に憐みがあるのです。憐みでないと解決は起こらないので、正しい解決は両社の中に入って平等にジャッジしなければなりません。平等にジャッジしていい理由は愛しているからです。しかし神様を中心にしていないとジャッジがズレてしまいます自分がズレているの知らないから間違っているのです。クリスチャンはズレているのを知っているから素晴らしいのです。ズレた私達が聖書を土台にしてみると何が正しいか分かってきます。自我に死ねばいいのですが、難しいところなので、一体にならなければいけません。私達の役割は一体にさせることが仕事です。どちらの立場も憐れんで分かってあげるのです。憐みは相手を理解しようとするところから始まります。理解しようとしなければ憐みではありません。イエスキリストはこの世の弱さを分かるために、糞土にまみれた家畜小屋で生まれました。そしてこの世の人と同じ人生の屈辱を生きたのです。キリストは人生の大部分を人間の性質を理解するために費やしたと言えるでしょう。そして、最後の3年だけ公生涯を行いました。イエスは理解をとことんした上で正しい事を伝えたのです。だから神様は私たちに同情できない方ではないのです。神様は分かるようにして下さい。だから私達も分かるようにするし行おうとするのです。幸せになりたいのなら帰属意識を捨てることです。そして正しい帰属意識を持つことです。あなたが帰属しているのはこの地球です。神様はこの地の平和を保つ為あなたを管理者として帰属させたのです。私達がしなければいけないのは平和を保つ為の仕事をしなければなりません。何か間違っているのであれば直そうとしなければいけません。その為と闘うのはいいことですが、排除の為に解決の為に闘うのです。怒るのはいいことですが愛を持ってしなければ意味がありません。怒って排除したのでは悪魔の仕事です。悪魔できえ神の事を知っています。信じていても行いがなければ意味がありません。だからこう書かれているのです。「あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、身震いしています。」(ヤコブ2:19)

### さいごに

もしあなたが自分の帰属意識を捨て神にある帰属意識を持ち、人を憐みによって理解しようとするならあなたはこの地にあってアブラハムのような人、遊女ラハブのような人になるでしょう。アブラハムは信仰によって行ったので父になりました。遊女ラハブも信じて神に言われたことを行ったので遊女でありながらイスラエルの民を救う立役者になりました。売春婦だった彼女は聖書で英雄に変わったのです。今までの行いが大事ではありません。信じた人がどう行おうかが大事です。過去は関係ありません。今信じたあなたの行いに意味があります。今日過去を捨てて、取るべき行動を愛を持って、憐みを持って生きていきたいと願います。

(要約者:富岡美千男)

(2021年1月17日)